

ベンジャミン・フランクリン

七代目子孫の日米交流

ベンジャミン・フランクリンの7代目子孫 アーウィン・ユキコさん（1925〜2014）の埋葬式が

7月18日、ニューヨーク州の大菩薩禅堂で行われた。



ユキコさんの祖父ロバート・ウォーカー・アーウィンはフランクリン5代目の子孫で、1866年に来日。武智いきとの結婚は日米初の国際結婚となった。ハワイ王国公使として邦人四八ワイ移住を推進、三井物産



アーウィン・ユキコさん逝く NY州で埋葬式 東洋医学を西洋に紹介

創始者の一人でもある。ユキコさんの父はスタンダード石油会社の極東副支配人として日本に赴任し、渡部市子と結婚した。市子の父、渡部鼎は野口英世四手を手術した医者として有名だ。

ユキコさんは東京女子大学を卒業後、インディアナ大学で社会福祉学を専攻した。指圧・はり治療のセラピストとして高名で、著書『指圧・健康維持のための日本の指圧』は多く四外国語に翻訳された。日本指圧学校で勉強し厚生省指圧セラピストの資格免許を取得、1964年にニューヨークで指圧とはり治療のセラピストとして活躍。著名人や世界各国の王族・貴族の治療にもあたり、ニューヨーク州教養局医療マツサイジ役員会理事も務めた。日米混血の若い世代が、自分が経験したいじめや差別を受けずにアイデンティティを確立できることを願って、アーウィン一族の歴史や日米交流関係に関する著書や講演会を通じて日米交流に寄与した。070年に米国独立宣言を愛する子孫の会の正式会員になった。



著書『フランクリンの果実』（88年、文藝春秋社）の中で、「長いご生きる目的を探していた私は東洋に古くから伝わる医学の療法を西洋に紹介し、それを通して人々の苦しみをやわらげることは、生かす、生かすを見出すようになった。指圧の根本には愛と奉仕の精神がある」と綴るように、ユキコさんは一族の「社会に貢献せよ」という教養を尊重し、祖父の「日米が兄弟のように親しくなるといふ夢」を心の支えにした。一人暮らしの老後は、親しいステイプナーパーゼン夫妻が家族のように経済的にも面倒を見くユキコアーウィントラストを作り、看取った。ユキコさんの生涯は Phila・Nipponeicacafラ デルフィアと白尔を結ぶ歴史の絆（2015年、フイラデルフィア日米協会出版）に詳しい。（法田昌子・トラバ太幸）